

令和2年度事業報告

令和2年度（令和2年7月1日～令和3年6月30日）の「一般社団法人自然環境共生技術協会」の運営及び事業活動については、令和2年度事業計画に基づき、会員各位のご協力により、活発な事業展開を図ることができた。

企画運営委員会、総務委員会、事業委員会、広報委員会及び研究委員会においては、それぞれの所掌事項に関する運営方針に基づき、協会活動の円滑な推進、事業計画の適正な執行、講演会・セミナー・講習会の開催等による事業活動の充実、広報活動の充実、自然環境共生技術に関する研究活動の推進など、積極的な取り組みを行った。

令和2年度における会員の異動、総会、理事会、各委員会の開催状況及び事業活動の概要は、以下のとおりである。

1. 会員の異動

令和3年6月30日現在における会員数は次のとおりである。

会員種別	令和2年 7月1日 現在会員 数	入会者数	退会者数	令和3年 6月30日現 在会員数	備 考
正会員	33	0	0	33	
賛助 会員	法人	0	0	0	
	個人	5	0	5	
特別会員	3	0	0	3	
計	41	0	0	41	

2. 総会、理事会、各委員会などの開催

1) 総会、理事会、各委員会などの開催状況

総会、理事会及び各委員会を次のとおり開催した。

区 分	開催回数（回）	
通常総会	1	
通常理事会（うち書面決議1回）	2	
臨時理事会	1	
審議委員会（文書会議）	1	
委員会	企画運営委員会（うちオンライン会議 6回）	12
	総務委員会	2
	事業委員会	3

	広報委員会	4
	研究委員会	6

2) 各委員会の活動

(1) 企画運営委員会

協会活動全般に亘る情報交換を積極的に行い、事業計画執行上の総合的な調整を図るとともに、協会全体としての事業活動の効率的かつ円滑な推進に努めた。また、一般社団法人としての運営の維持・充実を図るため、会員の拡大策などに関する検討を行った。

(2) 総務委員会

協会の適正な管理・運営を図るため、規程・規則などの充実、会員の拡大・拡充についての検討を行った。また、予算案、決算案の作成・検討、総会及び理事会の開催準備などを行った。

(3) 広報委員会

協会内外への広報活動の充実を図るため、協会のパンフレットを改訂・発行するとともに、協会の活動状況などを伝えるためニュースレターを4回発行した。

また、ホームページにより、協会の機能や活動状況を紹介し、協会活動の広報に努めた。さらに、2020年版会員名簿の更新・発行を行い、会員、関係機関などに広く配布した。

(4) 事業委員会

講演会、セミナー（野外セミナー）、技術士第二次試験受験講習会などの事業を計画・実施し、技術力の向上と人材の育成に努めた。毎年6月と9月に実施していた講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止し、令和3年8月16日にオンライン講演会を実施した。野外セミナーについては、規模と人数を縮小し、「京都で展開する新しい雨庭」をテーマに開催した。技術士第二次試験受験講習会については、オンライン形式で実施したが、全国各地より参加応募があり、新たな需要を発掘することができた。

(5) 研究委員会

研究活動の企画、円滑な推進、各研究会の成果のとりまとめ及び成果の効果的な活用に努めた。当協会では、独自の研究活動を積極的に推進するため、会員の中から研究員が参加する3分野の自主研究会により研究活動を継続している。また、次年度以降、定期的な技術セミナーについても再開する予定である。

3. 事業活動

1) 調査・研究活動

(1) 自主研究活動

① 自然とのふれあい技術研究会

令和2年度は、「自然公園等施設の防災機能の強化について」について関係者に講師をお願いしてテーマにそった話題提供や技術報告をしてもらい、研究会メンバーの知識及び技術の向上に資する研究活動を行った。研究会は、オンライン会議も併用して環境省オブザーバーにも出席していただき、合計5回開催した。

② 自然再生技術研究会

自然再生推進法が成立してから20年が経過したことを踏まえ、新たな研究テーマを検討した。検討にあたり、令和3年1月、環境省の方をお招きしての自然再生事業に係る意見交換会を開催した。現在、環境省では、自然再生事業の推進及びさらなる活性化を図るため「普及啓発活動の強化」に力を入れているとのこと、20年間の成果を評価できる手法を検討し、表彰制度など含め協議会活性化に向けた取り組みの可能性について検討することとした。

③ 生物多様性技術研究会

令和2年度は、コロナの影響により休止していた活動を令和3年4月から再開し、過年度から検討してきた「生物多様性地域戦略のあり方」に関する議論を3回行った。行政界に捉われない生物多様性の保全と活用に係る戦略のあり方を視点に、ケーススタディとして多摩川流域内で策定されている地域戦略の内容を吟味し、生態系サービスの供給マップによる施策策定に関する検討を行った。今後さらに検討を進め、地域戦略の手引きに記載すべき内容について整理することにした。また、新たに「パブリックスペースとプライベートスペースをつなぐ生物多様性～庭から始まる生物多様性～」をテーマとした研究を開始し、研究の位置づけ、手順、工程等についての議論を2回行った。令和3年度内に事例収集整理、個別技術の抽出整理を目指すことにした。

(2) 受託調査活動

環境省から以下の2件の業務を受託し、会員企業の嘱託研究員が中心となって各業務に対応した。

① 令和2年度自然公園等施設技術指針（気候変動×防災、新技術の活用検討調査業務

自然公園等技術指針のうち「気候変動×防災」に関する部分を新規に策定するための検討調査を行った。

② 令和2年度自然公園等工事積算基準（自然公園編）検討調査業務

標準積算基準書を準用する工種については積算基準から削除するとともに、環境省独自の工種については実情に即した歩掛に改定することを目的として検討調査を行ない、工事積算基準の改正案を作成した。

2) 技術の向上と技術者の育成を図るための活動

(1) 特別講演会：新型コロナウイルス感染対応緊急事態宣言を受け開催自粛

(2) 自然環境共生技術研究会 (CoNECT)

①第3回自然環境共生技術研究会

- ・日時：令和2年11月17日(火)13:00~18:00~同18日(水)9:30~15:00
- ・場所：中央合同庁舎5号館19階会議室及びWebexを用いたオンライン形式
- ・主催：環境省自然環境局及び一般社団法人自然環境共生技術協会
- ・参加者：環境省職員90名、NECTA会員92名、総数182名
- ・次第：

(11月17日) 司会：NECTA阿部広報委員会委員

開会挨拶：鳥居自然環境局長

セッションⅠ：保全管理(4件)

セッションⅡ：広域計画(4件)

特別講演：「グリーンインフラとしての生態系の管理と保全」

徳島大学大学院教授 鎌田 磨人 氏

(11月18日) 司会：NECTA阿部広報委員会委員

セッションⅢ：情報整備(4件)

セッションⅣ：管理運営(4件)

セッションⅤ：施設整備(5件)

表彰式：審査員/植田自然環境計画課長、NECTA森本会長

(表彰受賞者)

局長賞：竹中康進氏(沖縄奄美自然環境事務所西表自然保護官事務所)

『西表島の自然環境保全のための適正な観光管理に向けた取組』

局長奨励賞：岸秀蔵氏(上信越高原国立公園管理事務所)

『シェルパ族による登山道修繕作業』

協会会長賞：増澤直氏、荒井章子氏、齋藤剛氏、今野尚美氏(㈱地域環境計画)

『やんばる国立公園の地生態学図の作成とその活用について』

協会会長奨励賞：関口準紀氏(ラスコジャパン)

『自然公園等施設における最新事例と新技術の紹介』

閉会挨拶：NECTA森本会長

②第4回自然環境共生技術研究会

- ・日時：令和3年6月14日(月)13:10~18:00~同15日(火)9:30~15:40
- ・形式：Web会議システムWebexを用いたオンライン形式
- ・主催：環境省自然環境局及び一般社団法人自然環境共生技術協会
- ・参加者：環境省職員207名、NECTA会員105名、総数312名
- ・次第：

(6月14日) 司会：NECTA 阿部広報委員会委員

開会挨拶：鳥居自然環境局長

セッションⅠ：野生生物管理（発表5件）

セッションⅡ：モニタリング・データ共有(発表4件)

特別講演：「小さな自然再生とオープンなデータと緩やかな保護区」

兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 三橋弘宗 氏

(6月15日) 司会：NECTA 阿部広報委員会委員

セッションⅢ：固有種保全・外来種対策（発表4件）

セッションⅣ：計画・維持管理（発表5件）

セッションⅤ：施設整備(発表5件)

表彰式：審査員/植田自然環境計画課長、NECTA 森本会長

(表彰受賞者)

局長賞：阿部慎太郎氏(奄美群島国立公園管理事務所)

『奄美大島におけるマングース根絶確認と防除完了に向けた取組』

局長奨励賞：馬庭康太氏(京都御苑管理事務所)

『京都御苑における雨庭整備』

協会長賞：依田麻友子氏(西武造園)

『水陸両用藻刈り船を用いた滋賀県琵琶湖の水草・外来種除去および

琵琶湖を核とした資源循環について』

協会長奨励賞：和田夏海氏(アジア航測)

『環境に配慮した再生可能エネルギー導入検討に向けた藻場分

布図作成』

閉会挨拶：NECTA 森本会長

(3) 野外セミナー

期 日：令和2年12月2日

テーマ：京都で展開する新しい雨庭

見学地：京都動物園、四條堀川交差点、日新電気研修センター、京都駅ビル

(12名参加)

(4) 技術士第二次試験受験講習会

・受験講習会テキスト改訂及び配布

・受験講習会の開催：Zoomによるリモート講習会（令和3年5月28日（金）

受講者20名）

(6) CPDの推進

会員技術者の継続教育を推進するため、造園学会を中心に構成される造園CPD協議会に参加し、講演会、講習会、セミナーをCPD認定プログラムとして申請し、実施した。

3) 情報提供等に関する活動

(1) ニュースレター

会員への情報提供として第65号～第68号を発行した。

(2) パンフレット・会員名簿

協会パンフレットを改訂した。また、2020年版会員名簿を編集作成し、会員及び関係機関などへ配布した。

(3) ホームページ

当協会のホームページの情報更新を随時、実施した。

(4) 報告書・講演録等の発行

【テキスト】

・環境部門：自然環境保全・環境保全計画講習会テキスト（令和3年5月）

【会員名簿】

・2020年版会員名簿(令和2年12月)

(5) 自然環境共生に関する情報収集及び発信

研究活動などを通じて自然環境共生技術に関連する情報の収集・集積を図った。さらに、関連団体主催セミナーなど開催情報、関係省庁からの事務連絡などを会員に発信した。

(6) 環境省との令和3年度予算要求に係る意見交換会

令和3年度予算要望の概要について、令和2年12月11日に都内会議室及びWebexを用いたオンライン形式において、環境省担当者と会員会社担当者との意見交換会を開催した。

以上